



新年のご挨拶

松江赤十字病院 院長 大居 慎治

明けましておめでとうございます。

昨年のお正月には予想だにできなかったことですが、昨年は新型コロナウイルス感染症に振り回された一年間でした。中国武漢で始まった感染症は、あっという間にパンデミックになってしまいました。当院でも二月から災害時並みの対策本部を立ち上げ、準備してまいりました。誰も経験したことのない事態で、情報を集め、知恵を出し合って、話し合いの上、協力して、試行錯誤しながら、保健所や県の担当者、医師会、他の病院とも十分な連絡をとりながら、ことに当たってきました。

岩手県、鳥取県と共に島根県も患者さんの発症は令和二年三月までありませんでしたが、翌四月にとうとう島根県内でも発生し、県内の感染症指定病院及び協力病院で助け入れが始まりました。その後二百名を超える患者さんが発生しました。今のところ感染源がほぼ特定できており、松江市内で蔓延している印象はありませんが、予断を許さない状況となっております。当院でも受け入れ病床の確保、PCR など検査体制の整備、休日にも対応する発熱外来の設置を行って万全の態勢を敷いております。

一方で当院は地域の基幹病院であり、三次救急を始め、周産期医療や、がん診療、その他の医療など通常の重要な医療を担っております。コロナが流行しようとも、これらの通常診療も影響を受けないようにいたします。院内感染が起こらないように最大限の注意を払い、来院される患者さんに安心して治療を受けていただけるようにしております。当面は入院患者さんの面会は禁止とさせていただきます、外来は必ずマスク着用、手指消毒と、体温測定、問診票の記入のお願いをしておりますのでご協力をお願いいたします。

今後新型コロナウイルス感染症がどうなっていくのか予断を許さない状況ですが、ワクチン接種も始まりそうで希望も見えてきております。皆様におかれましては、まずはご自身の健康を保つことに十分留意していただき、感染のリスクとなる行動は避け、感染予防に努めていただきたいと思います。

早くこの疫病が退散し、この一年が良い年になるよう願っております。



Clinical Department

診療科紹介

リハビリテーション科

リハビリテーションは、リハビリ、リハ、と略され、ラテン語の re (再) habitis (適する)を語源としています。リハビリテーション医療は、病気や怪我による機能障害を回復し、残存する障害があっても再び、その人らしい活動が行えるようにすることを目的としています。

超高齢社会となった現在、リハビリテーション医療は幅広く多くの病気や怪我、障害を対象とするようになりました。当院でも、脳卒中など脳神経疾患、骨折や変形性関節症などの整形外科疾患、心臓病などの循環器疾患、肺炎などの呼吸器疾患、摂食嚥下障害、がん、さらに手術前後の身体機能障害の予防・回復など、対象とする患者さんはほぼ全診療科に渡ります。病気や怪我そのものに加えて、入院治療を受けることで活動量が減るために二次的に起こる障害として、廃用症候群と呼ばれる状態もリハビリテーション

の対象となります。

当院では各診療科の医師にもリハビリテーションの必要性が周知されており、患者さんの病状に合わせて、出来るだけ入院早期からリハビリテーションを行うことで、より早い回復を目指しています。

リハビリテーション科では各診療科からの依頼に応じて、年間4500名以上の入院患者さんにリハビリテーションを処方し、早い方では発症当日や翌日から、ベッド上やベッドサイドからリハビリテーションを開始しています。

リハビリテーション科には現在2名の専任医師と1名の嘱託医師が所属しています。リハビリテーション科医師は、各診療科医師の依頼を受けてリハビリテーション処方を行い、それをもとに専門の療法士(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)が直接治療を行います。

どんな病気や怪我也、最善を尽くして治療を行なっても、一時的にあるいは恒久的に身体機能の障害を来すことが少なからずあります。

また、持病やもとの体力も一人ひとり異なっており、たとえ同じ病名で同じ手術、治療を受けたとしても、回復する経過は同じとは限りません。

持病がある方、高齢の方、栄養状態が悪い方などは、持病のない方、若年の方、栄養状態が良い方と比較すると、回復にはより長い時間が掛かることもしばしばです。

そういった場合にも、リハビリテーションを行うことで、身体機能の回復を促し、より早期にもとの活動が可能となって退院して頂けることもあります。

自宅や施設など、もとの生活の場に戻る事がすぐには困難な方は、より時間をかけてリハビリテーションを行える回復期リハビリテーション病棟や地域包括病棟などを有した地域の病院でのリハビリテーションや療養に向けて転院の調整を行います。

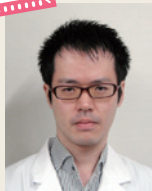
当院に入院して手術を受けた後退院された患者さんには外来でのリハビリテーションを行う場合もあります。また耳鼻科や小児科などからの依頼に対して、外来での言語療法や発達促進の指導も行っています。

一人でも多くの方々に、元気で活動的な生活に戻っていただけるよう、これからも主治医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、そして看護師やソーシャルワーカーと連携して診療を続けて参ります。



Hello Doctors

新採用医師紹介

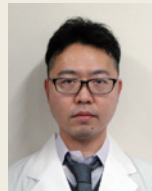


脳神経内科

タナカ ケンイチロウ

田中 健一郎

このたび地元の松江市に戻ってきました。これまで鳥取県や東京都で働いていましたが、そこで身につけたことをもとに地元のために頑張ってください。



脳神経外科

セヤマ

ゴウ

瀬山 剛

本年1月より脳神経外科に赴任いたしました瀬山剛と申します。松江の医療に少しでも貢献できるよう頑張ってください。よろしくお願ひいたします。



Clinical Department
診療科紹介
眼科

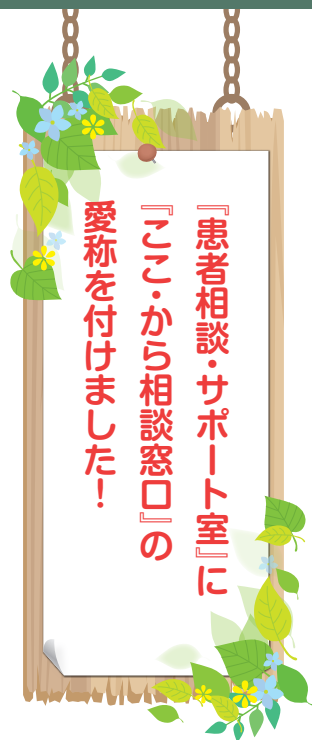
眼科では、主に白内障、緑内障、網膜硝子体疾患（網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、網膜動脈閉塞など）、小児眼科（斜視・弱視、未熟児網膜症ほか）、眼感染症、視神経疾患などを対象に治療を行っています。

現在常勤眼科医は4名で、日本眼科学会専門医3名と後期研修医1名です。専門性の高い眼科の検査を行う視能訓練士が6名、医師業務を助けてくれる医療クラークが2名と、眼科病棟からの応援看護師2名の体制で診療を行っています。患者さんは、主に開業医の先生方より紹介される、難易度の高い手術を必要とされる方が多く、年間約1200件以上の手術を行っています。

近年、手術を行う外科系の診療科では、低侵襲・小切開手術が主流になっています。眼科は元来細かい手術を行う科ですが、最近では手術機器の進歩もめざましく、10年程

度前と比べてもかなりの小切開になってきました。白内障手術の切開は2mmの切開で、硝子体手術は0.4mm程度の切開で行うため、以前に比べると術後炎症の消退や見え方の質が改善する期間が、より短くなりました。入院期間も短くなり、以前は10日〜2週間程度の入院が必要だった網膜剥離や増殖糖尿病網膜症も今では3日間程度になっています。緑内障に対しては、低侵襲な手術から難易度の高い手術まで対応しており、どのような病期の患者さんに対しても必要な治療ができる体制になっています。また、当科は松江医療圏で唯一の斜視・弱視専門外来があり、小児から成人まで、手術を含めて専門性の高い治療を行っています。最近では内視鏡を用いた涙道手術も積極的に進んでおり、涙道閉塞により涙が気になる方や涙嚢炎を繰り返す方にも手術で対応できるようになっています。

眼科は、全身の中では極めて守備範囲が狭い診療科ですが、疾患や部位によって多くの専門分野に分かれます。しかし、当科ではある分野のみに偏ることなく、オールマイティに対応できる体制を整えています。紹介患者さんをお待ちしています。



『患者相談・サポート室』に
『ここから相談窓口』の
愛称を付けました！

当院では患者さんまたはご家族などに安全で安心できる医療サービスを提供するために、疾病に関する医学的な質問並びに生活上・入院上の不安等、様々な相談について適切な対応を行うことを目的として『患者相談・サポート室』を設置しています。

『患者相談・サポート室』では当院受診を問わず地域に暮らす皆さんから看護相談・がん相談・福祉相談等が寄せられ、患者さんの立場に寄り添いながら対応させていただいております。

この『患者相談・サポート室』に『ここから相談窓口』と愛称を付け、より分かりやすく身近な存在となることを願って付けさせてもらいました。

『ここから』には『ここ（こころ）』や『から（からだ）』の相談をお受けするということ、また、様々な不安や相談について『ここから』支援するという意味が込められています。

『ここから相談窓口』は患者総合支援センター内にありますのでいつでもお越しください。

『ここから相談窓口』
(こころ) (からだ)

病気の不安
治療費の不安
就労の不安

すべてここから支援します。



令和2年10月に行った患者満足度アンケートの結果をご報告します

調査期間 令和2年10月26日～10月30日 調査対象 外来患者(610名)・入院患者(184名)

当院への満足度を
5点満点で評価し
ていただいた結果…

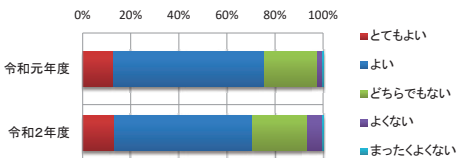
	評価が高かった項目	評価が低かった項目
外来	医師はあなたの話を聞いてくれましたか 4.6 点	待合室の環境はいかがでしたか 3.8 点
入院	医師はあなたの話を聞いてくれましたか 4.6 点	食事の献立はいかがですか 3.5 点

入院・外来ともに、「患者さんの話を聞いている」ことについて評価を頂いた一方、外来での評価は、「待合室の環境」について「椅子の間隔が狭い」「密になっている」というご意見をいただいております。感染症対策について「十分に対策が行われており安心している」という意見もあれば「混んでいて不安になる」といった意見も頂いております。入院につきましては、「病棟スタッフに良くしていただいた」、「安心して治療が受けられた」というご意見もある中、「相部屋で落ち着かなかつた」「食事に变化をつけてほしい」などご意見をいただいております

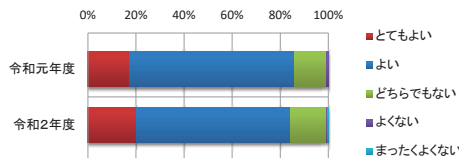
ご指摘いただいた内容につきましては、みなさんからのご期待に沿えるよう、より良い医療サービスの向上に繋げてまいります。

外来について

待合室の環境はいかがでしたか

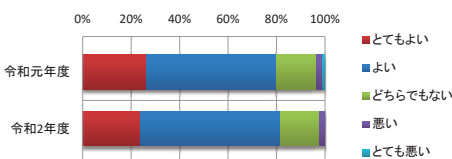


診察室の環境はいかがでしたか

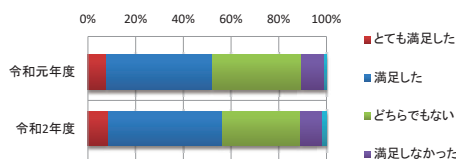


入院について

病室の居心地はいかがですか

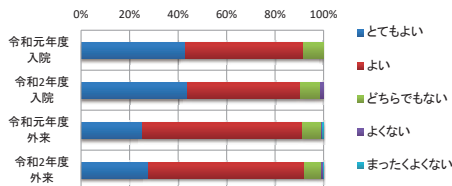


食事の献立はいかがですか

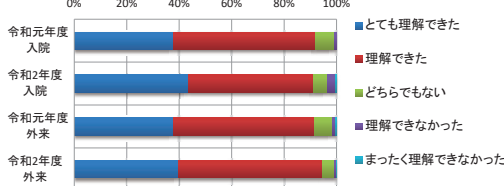


外来・入院共通

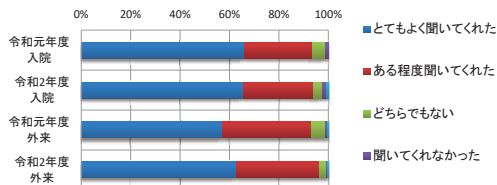
職員の言葉づかいはいかがでしたか



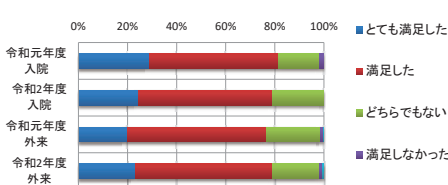
医師があなたに対して行った説明はいかがでしたか



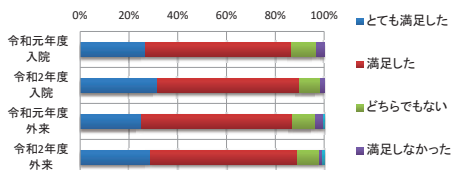
医師はあなたの話を聞いてくれましたか



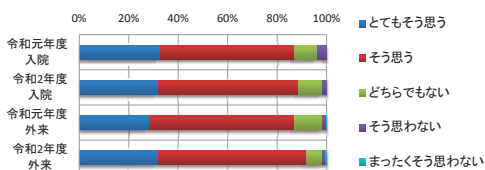
あなたにとって職員のプライバシーの配慮はいかがでしたか



全体としてあなたは松江赤十字病院に満足していますか



もう一度入院・受診されるなら当院を選ばれますか



■ 病院理念……わたしたちは、『人道』の赤十字精神に基づき地域の医療に貢献します。

■ 基本方針……

- ① 地域の基幹病院として、説明と同意に基づく「高度」「良質」な医療を提供します。
- ② 急性期病院として保健・医療・福祉・介護機関との連携を進め、最善の医療を行います。
- ③ 救急病院として24時間地域の健康を守ります。
- ④ 赤十字病院として災害救護に貢献します。
- ⑤ 教育病院として次世代の医療人を育てます。

松江赤十字病院 『患者さまの権利』

1. ひとりの人間として人格と価値観を尊重される権利があります。
2. 医療提供者との相互協力のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 検査・治療法などの自分が受ける医療の内容について、わかりやすい言葉や方法で説明を受ける権利があります。
4. 説明を十分理解し同意した上で、医療行為を受けるかどうか自分の意志で選択する権利があります。
5. 医療行為の選択にあたって、他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報、個人の秘密として厳正に保護され、承諾なしには開示されない権利があります。
7. 自分が受けている医療内容を知るために、診療録の開示を求める権利があります。

私たちが、上に掲げた患者さまの権利を尊重した医療を提供するために、患者さまには次のことをお願いいたします。

- ① 自分の健康に関する正しい情報の提供
- ② 医療への積極的な参加
- ③ 病院の規則を守ること
- ④ 研修医、医学生、看護学生などの研修・実習・見学への理解と協力